「笑顔」

21生　平野　詩歩

毎日が楽しいなんて　毎日楽しくないのと同じなんて
そんなことないんだって　証明する毎日

いつかの花火　君の瞳に映るのは
一瞬のキラメキといつまでも咲き誇る笑顔

あの日の電車の窓に　映る君の横顔を
ガラス越しに見る　笑顔眩しくて

響き合う　うるさいくらいの笑い声
いつまでも続きますように

未来は当然見えなくて　落ち込む時には
何故か悲しいことばかり　思い出しては凹む悪循環
そんな時瞼閉じて深呼吸　笑顔の方程式

今日が過去に変わり　写真が色あせ朽ちても
心に鮮やかな笑顔　消えない自信がある

日ごとに増していく　一瞬一瞬の重さ
僕らの笑　の

こんな僕らだから　きっとこれからも
毎日を楽しくいられ　い　いば

「大人の視点　子供の視点」

20生　吉田　聡

小さい頃から遠くに行くのが好きだった。小学生の頃は親に黙ってよく自転車で遠くに出掛けていた。遠くにといっても当時の自分にとってで、せいぜい自分の住んでいる町か、その隣までである。それでも当時の自分にとっては大冒険でわくわくするものだった。

そんな性格だったせいか、今ではサイクリング部に入って日本中を旅している。同じ日本といえども様々で、四国山地は急峻で、高知でみた太平洋は穏やかな瀬戸内海と違いダイナミックで、高野山は修行僧の方が　！　、
変わらず「大冒険」をしている。

今と昔でもう一つ変わったと思うのが視線の高さだ。そのことを感じたのが　の　の　、　た　た　、
のに視線の高さが違うと違う風景に見えるし、見えるようになったもの、見えなくなったものがあると気付いた。塀の向こう　見える　うになったけれど、
草やテントウムシや石ころまでが面白かった。昔はあんなに狭い行動範囲で満足していたのはそのためだと思う。

きっと、今の日常生活でも見逃しているものがいっぱいあると思う。だからたまにはしゃがんでみて、子供の頃の視点で見ることを忘れないようにしたい。

「心にうつりゆくよしなしごとを……」

20生　山谷　義貴

今回、1年生の「研究室紹介」の取材に同行して、とある先生に「座右の銘」を伺った際、「あなたはどうなん?」と逆に聞かれた。「座右の□□□